

1 県北地域の玄関口の役割が不十分

東京圏から1時間程度で到着でき、交通アクセスが良い那須塩原駅ですが、観光客の新幹線利用は少ない状況であり、県北の玄関口としての役割を十分に発揮できていないといえます。



今ある自然や、安心安全は維持しつつ、公共交通機関や仕事が充実した住みやすいまちが良い。



活気があって、県外から来た人も周辺に住んでいる人もまた来たいと思える場所だと良い。

2 観光地などへの公共交通機関が少ない

板室温泉や塩原温泉といった市内の観光地をはじめ、那須地域への観光の拠点にもなる那須塩原駅ですが、駅から観光地などをつなぐバスが少ないといった、二次交通の利便性の低さが指摘されています。



市内の主要観光地をうまく周遊するための二次交通の充実が必要。市内にとどまらず那須地域全体の観光の活性化にもつながる。



大都市のまねごとをしても、追いつくわけではなく意味がない。利便性と景観と人との交流を軸に、新しい発展の形が良い。

3 土地利用の高度化が進んでいない

那須塩原駅周辺では、駐車場としての土地利用が多く見受けられるなど、土地利用の高度化が進んでいません。



駅周辺だけでも満足できる時間をつくれるような場所になったら良い。



皇室が訪れる玄関口でもあるので、品格のある景観であってほしい。

4 商業施設、飲食店が少ない

観光客や駅周辺を訪れた人がとどまったり、周辺を散歩したりできる施設やスポットなどがあまりありません。駅の利用者だけでなく、地域の人も行きたくなくなるようなまちづくりが求められています。



飲食店やカフェなど、駅の利用者だけでなく、地域の人たちにとっても「行ってみたい」があるまちづくりが良い。



地元の方を含め、観光客が駅周辺を快適に散歩したり、滞留したりしやすい魅力的なまちづくり、環境づくりが大切だと思う。



特集

那須塩原駅周辺の未来を描く

本市だけでなく、那須地域、県北地域の玄関口である「那須塩原駅」。県北で唯一新幹線が停車する駅でありながら、「駅周辺の賑わいに乏しい」といった課題を抱えています。未来の那須塩原駅周辺はどうあるべきでしょうか。那須塩原駅周辺のまちづくりへの取り組みを紹介します。

▶ 問い合わせ 那須塩原駅周辺整備室 ☎0287(73)5730

那須塩原駅周辺の現状

那須塩原駅周辺は、本市だけでなく県北・那須地域への玄関口として、区画整理事業を進めるなどさまざまな事業が行われています。しかし、J-R東北新幹線の開通から40年近く経過しても、周辺には駐車場が散在し、人々や地域の賑わいに乏しく、東京圏から1時間圏内にあるといった地理的なメリットなど、このエリアが持つ魅力が十分発揮されていません。

一方、日本社会全体の高齢化の進展や人口減少の流れは変わらず、本市も平成22(2010)年をピークに、人口減少が続いていくと推測されます。こうした流れ、特に生産年齢人口の減少は、社会構造や社会経済に多大な影響があります。地域社会を維持するためにも、できる限り早めの対策を行うことが必要です。

さらに、人々のライフスタイルも多様化し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い「在宅勤務」などの新たな働き方が定着し、「働き方」そのものが大きく変わりつつあります。



那須塩原駅東口の様子

す。また、大規模化・激甚化する自然災害を経験する中、安全・安心な都市構造の構築、防災力の強化といった視点は、これからのまちづくりを考える上で欠かすことのできない重要なものとなっています。

こうした地域の実態、社会環境・時代の変革を踏まえ、30年後の未来を見据えて「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン」を昨年度に策定しました。このビジョンを元に、これから那須塩原駅周辺のまちづくりを進めていきます。

住む人・来る人が共に拓き、育む
栃木県北の拠点を目指して